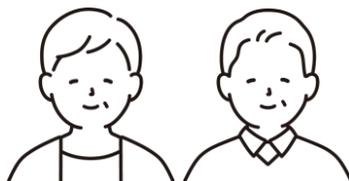


受け持ち事例

Aさん



概要

Aさん / 80代 要介護3

病気・障害・麻痺等

アルツハイマー型認知症

普段の生活の様子

- 基本的には見守りと一部介助が中心（自分でできることが多い）
- 仕事をしていた頃の記憶は鮮明であるが、それ以外の部分の記憶が曖昧
- 他の利用者と話していることもあるが、会話は互いに一方通行でかみ合うことは少ない
- 歩行は可能だが、はじめの一步を踏み出す際にふらつきが見られる（転倒リスクあり）
- 普段は、テレビの前の椅子に座り一人で過ごしていることが多い

1 アセスメント

#1)
Aさんは普段テレビの前で過ごしている。時折、寂しそうな表情が見られる。兄弟が多い家庭で過ごしてきたこと、人と関わる仕事をしてきたというAさんの生活歴が関係しているのではないか。歌っている時が生き生きとしている。「あなたも一緒に歌いましょうよ。ね、その方が賑やかだしね。」というAさんの言葉

#2)
Aさんの手はSpO2計測時にエラーが連続するほど、普段から手が冷たい。無意識に温めようとする様子が見られる。Aさんは足の下に手を入れて椅子に座っているため、徐々に仙骨座りとなり、座りにくそうな様子が見られる。“足の下に手を入れる”行動は、手を温めようとする行動なのではないだろうか。

2 介護ニーズ

#1)
歌を通して、賑やかな時間を過ごしたい

#2)
手を温めて、快適な座位を保持したい

3 介護目標

#1)
誰かと一緒に余暇の時間を過ごすことで、笑顔が見られる。

#2)
手の表面温度を上昇させ、足の下にを入れる時間を短くすることができる。

介護計画の実践過程

#1 歌を通して、賑やかな時間を過ごしたい

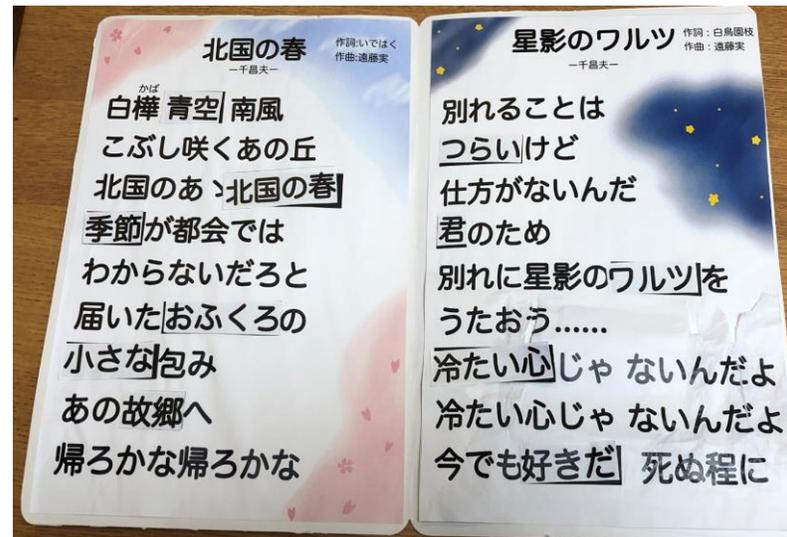
介護計画

- 「大きい歌詞表を持ってきたんですけど、バラバラになってしまったので、一緒に組み立てませんか？」
→ 本人の意向確認
- 机に置き、空所を確認
- 「ここ何が入ると思いますか。」とAさんに問いかける。
- 歌いながら歌詞を見つける
- のりをつけて貼り付けて進める
- 完成したら「一緒に歌いませんか」と声掛けをして、歌う
- 表紙に挟んでプレゼントする
- 感想を聞き、その後様子を見る

+表紙づくり

利用者の様子・変化

- 歌いながら前のめりになっていく様子うかがえた。
- 「この曲ね、すごく流行ったんだよ。」「宴会でよく歌ったよ。」と懐かしそうに話していた。
- 「あなたもこの歌知っているの？」「一緒に歌おうよ、1.2...」と カウントをする様子も見られた。
- 実施後も、歌詞表を見て笑みを浮かべて歌っていた。



#2 手を温めて、快適な座位を保持したい

介護計画

【検証方法】

手浴前後の手の表面温度の上昇具合、足の下から手を外し、次に入れるまでの時間を座位の保持とする。湯は40度。

- 「Aさん、手冷たいですね。今から一緒手を温めませんか。」と意向確認
- Aさんの手の表面温度を計測
- 実習生も隣で手浴をしながら、湯に浸けて、グー・パーをして手を動かす
- 手浴後、許可を経て、表面温度を計測
- 感想を聞き、様子を見る
- 座位の保持時間を計測

利用者の様子・変化

●1回目

手の表面温度（約+2度）

【前】右：34.4 左：34.0

【後】右：36.0 左：36.2

座位保持時間（約+1分）

【前】3分03秒

【後】4分17秒

●2回目

手の表面温度（約+1.5度）

【前】右：34.1 左：34.1

【後】右：35.9 左：35.6

座位保持時間（約+3分）

【前】1分15秒

【後】4分51秒

- 「うわ、気持ちいい。温かい。」「温かい、最高だよ。」
- 「温かい、ありがとう。」と、満足している様子がうかがえた
- 座位の崩れは“手が冷たい”からではない。

学んだこと

介護計画の作成・実施を通して

- 本人の思いやニーズは、直接的に「～したい」という形で発せられるものがすべてではなく、ふとした会話の中の一言、その一言の背景（これまでの生活歴など）を辿ることによって引き出すことができるということ。
- 科学的に数値を用いて評価を行うことでより、感覚的ではない根拠のある結果を得ることができること。実際に本人と同じ状況を自分で体験してみることで、見ただけでは気づけないことに気づくことができること。

実習全体を通して

- 利用者が意欲的に取り組んでいる様子を、適切に見守ることも、利用者のやりたいこと・できることを最大限に発揮できる環境を整えることに繋がり、利用者と一緒に利用者のニーズを満たす介護を行うことにもつながるのだと職員への対応の見学や、個別介護計画の実施の場面において学ぶことができた。